

有機農産物とエコえひめ農産物に関する消費者の意識調査の結果について

1 調査目的

環境保全型農業の推進に資することを目的に、「愛媛県みどりの食料システム基本計画」(R5年 3 月)を策定しており、県民の有機農産物とエコえひめ農産物に関する理解度を把握する。

2 調査方法

委託事業者が保有するモニターへのインターネットを利用したアンケート調査

3 調査期間

令和7年8月29日(金)～9月9日(火)

4 回答数

400人 県内に居住する 18 歳～79 歳の男女 男女比率はほぼ1:1

5 概 要

- 「有機農産物を知っていますか」の質問では、「知っている」が24.0%、「聞いたことある」が50.0%、「知らない」が26%であり、理解度は低い傾向である。
- 「エコえひめ農産物を知っていますか」の質問では、「知っている」が16.5%、「聞いたことがある」が30.3%、「知らない」が53.3%であり、有機農産物と同じく理解度が低い傾向である。
- 有機農産物やエコえひめ農産物を購入したことがある割合は32.5%であり、理解度と同様に購入率も低い傾向であった。
- 有機・エコえひめ農産物の購入先としては、スーパーが73.1%、直売所53.1%と高く、有機・エコに特化した小売店や生協、農家直接やインターネットでの購入はいずれも10%以下と低かった。
- 「有機・エコえひめ農産物を購入したいときに購入できなかったことがありますか」については「はい」が25.4%で、購入できなかった理由では、「お店での取扱いがなかった」が45.5%、「店舗にたまたま在庫がなかった」が48.5%、「取扱い店舗が分からなかった」が21.2%、「店舗の中でどこにあるか分からなかった」が24.2%など、身近なところで有機・エコえひめ農産物が販売されていないケースによるものであった。「価格が高かった」は、12.1%、「見た目品質が悪かった」は、3.0%であった。

○有機農産物の購入や外食等での利用頻度については、「ほぼ毎日」が6.2%、「週に2～3回」が5.4%、「週に1回」が13.8%、「月に2～3回」が24.6%、「月に1回」が18.5%、「月に1回未満」が25.4%、「利用しない」が6.2%であった。そのため、週に1回以上の利用が25.4%であったことから利用頻度は低い傾向であった。

○エコえひめ農産物の購入や外食等での利用頻度については、「ほぼ毎日」が4.6%、「週に2～3回」が7.7%、「週に1回」が11.5%、「月に2～3回」が23.1%、「月に1回」が14.6%、「月に1回未満」が21.5%、「利用しない」が16.9%であった。そのため、週に1回以上の利用が23.8%であったことから、有機農産物同様に利用金額は低い傾向であった。

○有機・エコえひめ農産物の利用金額は、毎月どれくらいかについては、「5000円未満」が77.7%、「50,000～10,000円未満」は15.4%、「10,000円～15,000円未満」が4.6%、「15,000円～20,000円未満」が1.5%、「20,000円以上」が0.8%であり、購入金額は低い傾向であった。

○有機・エコえひめ農産物を購入する理由は、「安心安全と思う」が73.8%、「健康に良いと思う」が38.5%、「食味や栄養面で優れていると思う」が22.3%、「環境保全に貢献したい」が18.5%、「農業農村の活性化に貢献したい」が18.5%であり、農薬や化学肥料の使用量が少ないことによる安心感が主な理由であった。

○有機・エコえひめ農産物を購入する際に気にすることは、価格が71.5%、産地や生産者が47.7%、見た目が25.4%と、主に価格面が考慮される結果であった。また、有機・エコえひめ農産物を買わない理由としては、「価格が慣行農産物より高い」が48.5%、「安全性が慣行農産物と変わらないから」が11.5%と、価格が高いことによる理由が主であった。

○有機農産物が慣行農産物と比べてどのくらいなら購入するかについては、「慣行農産物と同じ」が35.0%、「1割高」が20.5%、「2割高」が18.0%、「3割高」が6.3%、「5割高」が1.8%、「価格に関わらず購入する」が6.5%であった。そのため、2割高までなら購入するが73.5%であった。

○エコえひめ農産物が慣行農産物と比べてどのくらいなら購入するかについては、「慣行農産物と同じ」が34.3%、「1割高」が21.0%、「2割高」が18.5%、「3割高」が6.8%、「5割高」が2.3%、「価格に関わらず購入する」が6.0%であった。そのため、2割高までなら購入するが73.8%であった。

○環境保全型農業の推進方針を定めた「みどりの食料システム戦略について」の認知度については、「内容も知っている」が2.8%、「知っているが内容は知らないが」14.3%、「名前も知らない」が83.0%と認知度はかなり低い結果であった。